

来賓挨拶



厚生労働省政策統括官

大島 一博

本日、高齢者の農福連携をテーマに「令和3年度JA共済総研セミナー」が開催されました。おめでとうございます。

農福連携は徐々に盛りあがってきておりますが、3年ほど前、「農福連携等推進会議」という形で、役所と民間の有識者、実践者の方々が入ったことで一段と盛りあがりが増しました。そのなかでビジョンが作られ、具体的なアクションが定められ、目標が決められました。^(*1)

先ほど吉村理事長からお話がありましたよ

うに、主力は障害のある方で、就労継続支援事業所を中心に、基本的にはしっかり農業をするというスタンスだったと思います。私も知り合いかから、にんにくを作りましたとか、障害者の作業所で田んぼの管理をやっていますとか、みかん山の管理を受託しましたとか、九条ねぎを作りましたとか、色々な声が届いてきて、これはこれで本当に良かったと思います。

加えて、このビジョンのなかでは、「「福」の広がりへの支援」ということで、犯罪や非行に

走った方、あるいは、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある方などにも対象の幅を広げています。最終的には地域共生社会の実現の一環としてSDGsにもつながる、まさに高い観点から将来を見据えたビジョンであると思います。

J A 共済総合研究所におかれましては、高齢者の就労パターンを分類していただきました^(*2)。大別して、きちんと給料を出す、賃金を払うといったタイプと、社会参加や地域づくりなどのタイプに分かれると思います。頭のなかで全体像を描きながら、この取組みはどの部分の話なのか、といったことが整理されていけば、お互いのコミュニケーションがより取りやすくなるのだろうと思います。

私も最近、高齢者の農福連携に関心を持ち、各地の事例を聞いています。例えば奈良県葛城^{かつらぎ}市では令和2年11月から「畑活プロジェクト」^{ハタカツ}

に取り組んでいます。

高齢者の畑づくりを、介護予防的な形で始めました。畑までちよつと遠いので移送して欲しいという方には移送サービスを始めたり、子どもたちと一緒に収穫をしたり、夏は朝早くラジオ体操をして、その流れで畑活を行っています。段々軌道に乗りだすと、独居の方々に野菜をお届けしたり、あるいは食材から食事に加工してお届けしたり、コミュニティセンターで野菜を売ったりしています^(*3)。

これはまさに、サロンのな動きとなつていくということです。介護予防を狙って始めたものが、多世代交流や集い、さらにはそうしたつながりから、支えあい活動のように発展し、まさに本日のセミナーの副題のように、介護予防、介護等で農業活動を通じて、生きがいづくり、健康づくり、社会参加、そして地域貢献を実践している例も出始めています。

高齢者の農福連携というのは、まだまだ少数だと思えますが、障害者と比べてまた違った形で色々な興味深い展開があると思いますので、本日のセミナーは大変時宜を得たものと思っております。

主催されたJ A 共済総合研究所の方々には大変感謝したいと思います。役所間の縦割りの壁を越えて、こういった取組みを官民連携ですすめていきたいと思えますので、今日を契機に一層盛りあがることを期待いたしまして、私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

(* 1) 「農福連携等推進会議」は農福連携の推進方案を検討するために、省庁横断で設置された。会議は平成31年4月25日、令和元年6月4日の2回開催され、内閣官房長官が議長、農林水産大臣・厚生労働大臣を副議長に、関係省庁と有識者が参加した。第2回会議で農福連携を推進するためのアクションを明文化した「農福連携等推進ビジョン」が取りまとめられた。
首相官邸ウェブサイトを https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nousu/noufuku_suishin_kaiji/index.html
ノウフクMia <https://noufuku.jp/know/about-noufuku/>

(* 2) J A 共済総合研究所「イチから分かる 高齢者の農福連携」高齢者のゆるやか農業・農的活動」2020年3月発行。J A 共済総合研究所ウェブサイトを <https://www.jkri.or.jp/news/20200415.html>

(* 3) 「介護予防・日常生活支援総合事業等の充実のための厚生労働省派遣による市町村支援について(葛城市)」
厚生労働省ウェブサイトを <https://www.rhiw.go.jp/content/12300000/000784122.pdf>